

紙推進協ニュース 平成31年3月31日 No.98

紙製容器包装リサイクル推進協議会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-21 新虎ノ門実業会館 8階

TEL : 03-3501-6191 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>

FAX : 03-3501-0203 Eメール : p@kami-suisinkyo.org

本紙推進協ニュース No. 98では、[I] 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会（容リ協会）紙容器事業情報、[II] 平成30年度第3回理事会報告（3/18開催）をお届けいたします。理事会報告の中では容リ制度見直しの関連動向、及びプラスチック資源循環戦略（案）の動きについて説明いたします。

[I] 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会（容リ協会）紙容器事業情報

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の平成30年度 再商品化見直し等報告会が3月5日に開催されました。本報告会は4素材を総括して行われました（資料1参照）。

<平成30年度 再商品化見直し等報告会>における紙容器事業に関する内容

1 平成30年度 再商品化実績見直し

- ・市町村からの引き取り見込量は20,840トンとなった（前年度実績21,629トン、前年度比96.4%）。
 - ・再商品化製品販売見込量は、製紙原料19,600トン（94.2%）、材料リサイクル150トン（0.7%）、固形燃料1,050トン（5.0%）、合計20,800トンとなり、前年度より297トン減少（前年度比98.6%）した。
- 1月までの紙製容器包装の販売は平成30年度も大きな問題もなく推移している。但し、市町村からの引き取り見込量は20,840トンと前年度比789トン程度減少が見込まれる。

2 平成30年度 紙製容器包装収支見込（余剰精算金見込）

<余剰精算金見込について>

平成20年度より、拠出金制度が開始されたため、実施委託料金収支ベースと拠出委託料金収支ベースで余剰精算金の見込を行っている。

① 再商品化実施委託料金ベース

実施委託料の清算見込額は、約2.24億円となり、

再商品化実施委託料金ベースの余剰金精算率は約39.9%となる見込

② 拠出委託料金収支ベース

拠出委託料の清算見込額は、約2,311千円となり、

拠出委託料金収支ベースの余剰金精算率は約65.1%となる見込

3 平成31年度 落札結果

- ・市町村の申込量 20,975 トン（前年度比 96.1%）となり前年度から 852 トン減少した。
- ・入札参加事業者数は 45 社（前年度 49 社）に減少し、市町村の申込数は 143（前年度 143）と同様であった。
- ・落札加重平均単価は -8,828 円/トン（前年度 -9,515 円/トン）となり、前年度より 687 円下がった。

うち：逆有償落札平均 6,365 円/トン（前年度 6,209 円/トン）

逆有償落札量 3,177 トン 全落札量の 15.1%（前年度 2,973 トン 全落札量の 13.6%）

うち：有償落札平均 -11,541 円/トン（前年度 -11,994 円/トン）

有償落札量 17,798 トン 全落札量の 84.9%（前年度 18,854 トン 全落札量の 86.4%）

- ・再商品化事業者への支払いは、逆有償落札量の増加により、20,222 千円と昨年より増加する見込。
（前年 18,459 千円）
- ・有償入札による再商品化事業者からの容り協への委託収入は約 2.05 億円と見込まれ、消費税控除後の金額が有償で落札した保管施設の市町村に拠出される。

[II] 平成30年度第3回理事会報告

平成30年度第3回理事会を平成31年3月18日（月）に開催し、1. 次期体制、2. ○○元年度の定時総会の説明、3. 平成30年度の活動経過報告、4. 平成30年度決算報告（見込）、5. ○○元年度の活動計画、6. ○○元年度予算案、7. 新会員のご紹介とご加入のお願い、8. 容り制度見直しの関連動向、9. プラスチック資源循環戦略（案）の動きについて報告し、協議を行い各議案について了承された。以下にその概要を報告いたします。



1 次期体制

- ・会長交代について、凸版印刷（株）松田取締役専務執行役員から、6月5日の総会で野口常務執行役員に交代となります。来年度は役員改選の年ではありませんが、本件は総会にて第2号議案として提出し承認を得る形にいたします。任期は残りの一年といたします。

2 ○○元年度の定時総会の説明

3 平成30年度の活動経過報告

3-1. 自主行動計画2020フォローアップ報告（2017年度実績）

- 1) リデュースの推進：11.2%削減（2004年度比：紙・板紙使用量削減）
- 2) リサイクルの推進：回収率24.5%

3-2. 創立20周年記念事業の実施

1) 「創立20周年会員セミナー」開催

- ・経産省、環境省、農水省を招いて、海洋プラスチックあるいはプラスチック資源循環戦略、中国廃棄物輸入規制問題、食品ロス削減問題等の課題についてご講演いただいた。

2) 「3R改善事例集第12版 創立20周年記念号」の発行

- ・「紙推進協の20年の歩み」、「紙製容器包装20年の歩み」などの特集を組み、特別号として作成した。

3-3. 容リ制度見直しの関連動向<容リ法改正対策委員会>

1) プラスチック資源循環戦略(案)に対するパブコメ提出

- ・第4回プラスチック資源循環戦略小委員会にて「プラスチック資源循環戦略(案)」が取りまとめられて、広くパブコメを公募することとなった。紙製容器包装として関連のある内容に関し、2点のパブコメを提出した。さらに幹事長である3R推進団体連絡会においても1点のパブコメを提出した。

2) 中国の廃棄物輸入規制の動き

- ・平成30年1月より紙製容器包装を含む「その他古紙」の中国への輸出が禁止となり、一時在庫が増大する等、影響がありましたが、危機的な状況は回避されました。

3-4. 紙製容器包装のリサイクル実態把握のための調査活動

1) モニター調査報告 <技術委員会>

- ・紙製容器包装の回収量は、全国主要市区の排出量調査と名古屋市の家庭から排出される分別モニター調査の結果から、実態把握を行ってまいりました。
- ・3年に一度のモニター調査を報告するとともに、排出量の推計値の精度をあげるため、毎年経済産業省の排出量数値を参考に指標を作成し、今後の回収率算出の方策を検討する。

2) 紙製容器包装のマテリアルフローの作成 <技術委員会>

- ・2017年度の紙製容器包装全体のマテリアルフローを作成しました。

3) 市町村のヒアリング調査及び組成分析調査 <技術委員会>

- ・指定法人ルートで回収している神奈川県大和市、古紙ルート(雑がみ)として回収している東京都墨田区、千葉県柏市に取り組み状況についてヒアリング調査を実施して情報交換をしました。
- ・帯広市(指定法人ルート)、出雲市及び、指定法人ルートで紙製容器包装の最大量を分別収集している名古屋市で、紙製容器包装の組成分析調査を今年も実施しました。

4) 市町村回収量アンケート調査 <総務委員会>

- ・市町村の回収量アンケート調査を人口10万人以上の295市区対象に実施、292市区より回答を得ました。ご協力いただいた市町村に調査集計報告と「3R改善事例集 第12版 創立20周年記念号」を送付、紙製容器包装の回収促進と、今後の調査への協力をお願いしました。

3-5. 3R推進のための事例研究と広報・啓発 <総務委員会>

1) 「3R改善事例集第12版 創立20周年記念号」発行

2) 「エコプロ2018」に出展(12月6日-8日:東京ビッグサイト)

3-6. 自主行動計画と主体間の連携の推進・3R推進団体連絡会における取り組み

1) 自主行動計画フォローアップ報告(12月12日:経団連会館)

2) 主体間の連携に資する取り組み

- ・「容器包装3R推進フォーラム in 高円寺」(杉並区：10月31日)開催
- ・意見交換会「容器包装3R交流セミナー」(山形・金沢・高知市)開催
- ・3R推進市民リーダー育成：2018年度には新宿区へと市民との協働の輪が広がっています。
- ・展示会への出展：「エコプロ2018」、3R推進全国大会(環境省主催；富山県)、港区等にもパネル展示、「NEW環境展」への協賛も実施しました。

3-7. 会員への情報提供

- 1) 紙推進協ニュースの発行(No. 94~98)やメール等を活用、審議会及び指定法人の再商品化委託費用等の情報を収集、積極的に情報を発信しました。
- 2) 「3R改善事例集第12版 創立20周年記念号」を全会員に送付・ホームページの充実

4 平成30年度決算報告(見込)

- ・全体の収支計算見込みとしては、92.1万円の赤字となる見込み。予算より95.4万円改善予定。

5 〇〇元年度の活動計画

- 1) 企画・運営
- 2) 容器包装リサイクル制度の見直しに向けた取り組み
- 3) 紙製容器包装のリサイクル実態把握のための調査活動
- 4) 3R推進のための事例研究と広報・啓発
- 5) 自主行動計画と主体間の連携の推進・3R推進団体連絡会における取り組み

6 〇〇元年度予算案

- ・〇〇元年度は財政が厳しいが、3R推進団体の分担金の圧縮や3R事例集のコストダウンを図ります。

7 新会員のご紹介とご加入のお願い

- ・当推進協議会の財政が厳しい状況である事を説明、引き続き新会員加入へのお力添えをお願いしました。

※ 議長より今年度の活動報告、会計見込、来年度の活動計画及び会員募集について質疑を図ったところ疑義なく了承された。

8 容リ制度見直し関連動向

- 1) 日本容器包装リサイクル協会再商品化見直し等報告会(3月5日開催)
 - ・平成31年度の落札結果を説明した。
- 2) プラスチック資源循環戦略(案)
 - ・第4回までのプラスチック資源循環戦略(案)の小委員会を受けて平成30年末にパブコメを一般公募し、その結果を踏まえて第5回の小委員会を平成31年2月22日に開催した。
 - ・388者より1,166件パブコメが寄せられ、それを元に補足追加等を含めプラスチック資源循環戦略(案)の一部を見直しが行われた。
 - ・「プラスチック資源循環戦略(案)」で、第5回プラの小委員会にて修正された内容や「再生可能資源である紙、バイオプラスチック等のプラスチック代替製品の開発や転換」等、紙に関わる部分を中心に説明した。

※ 環境省の中央審議会より「プラスチック資源循環戦略」の答申がまとめられ、3月26日に環境大臣に手交された（下記、環境省のHP参照）。

- ・日本容器包装リサイクル協会の平成31年度再商品化事業者説明会資料（紙製容器包装）

<https://www.jcpra.or.jp/recycle/explanation/tabid/993/index.php#kami>

- ・プラスチック資源循環戦略の在り方について ～プラスチック資源循環戦略（案）～（答申）
第5回プラスチック資源循環戦略小委員会の資料

<http://www.env.go.jp/council/03recycle/yoshi03-12.html>

<質疑応答>

現状、6月のG20サミットに向けて、「プラスチック資源循環戦略（案）」を中心に動いており、容リ制度そのもの見直しが見られる可能性もあります。その際に素材別としての紙製容器包装の扱いには注目する必要があり、情報共有と意見交換を行いました。

以上で本日の議題は全て終了し、議長より閉会が宣言され理事会は終了した。

推進協ニュース別添資料

- ・資料1 「平成30年度 再商品化見通し等報告会」資料
- ・資料2 「プラスチック資源循環戦略の在り方について～プラスチック資源循環戦略（案）～（答申）」
「第5回プラスチック資源循環戦略小委員会」資料

—以上—